

[成果情報名]ヒノキ林での巻枯らし間伐作業の適期及び作業効率と剥皮幅

[要約] 1本あたりの処理時間から、ヒノキ林での巻枯らし間伐の作業適期は3～9月。巻枯らし間伐と伐り捨て間伐では、巻枯らし間伐が短い時間で作業ができる。剥皮幅は、60cmが効率的である。

[キーワード]ヒノキ、巻枯らし間伐、適期、作業時間、剥皮幅

[担当]長崎総農林試・林業部・森林環境科

[代表連絡先]電話 0957-26-3330、電子メール masatoshi-shimizu@pref.nagasaki.lg.jp

[区分]林業（育林）

[分類]指導

[背景・ねらい]

巻枯らし間伐は一度の簡易な作業で間伐不足林分を適正密度まで誘導出来るが、その作業適期や伐り捨て間伐との作業時間の比較、効率的な剥皮幅などについて不明な点が多い。そのため、これらについて明らかにする。

[成果の内容・特徴]

1. 1本あたりの処理時間から、巻枯らし間伐の作業適期は3～9月である（図1）。
2. 巻枯らし間伐と伐り捨て間伐を比較した場合、巻枯らし間伐が伐り捨て間伐よりも短い時間で作業ができる（表）。
3. 剥皮幅別の平均処理時間（分/本）は120cm剥皮 > 60cm剥皮 > バナナ状剥皮（平均剥皮幅29～44cm）の順である（図2）。
4. 処理後6ヶ月の葉色は、120cm剥皮と60cm剥皮で全ての処理木が変色し（一部変色含む）枯死化が進む（図3）。

[成果の活用面・留意点]

- ・巻枯らし間伐の作業スケジュールを立てるときの参考になる。
- ・間伐作業の省力化につながる。
- ・巻枯らし間伐を実際に行うときの剥皮幅の参考になる。
- ・巻枯らし間伐は、路網が未整備のため間伐不足となり、水源かん養等の公益的機能が低下した林分の早期の機能回復をはかるために行うことが望ましい。

[具体的データ]

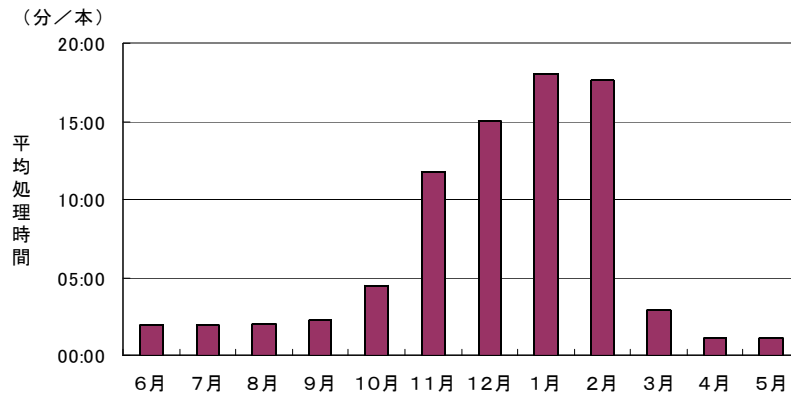


図1 月毎の巻枯らし間伐処理時間 (120cm 剥皮)

注1) 胸高直径別本数割合 10cm 以下：4.2%、10.1~15cm：54.2%、15.1~20.0cm：33.3%、20.1cm 以上：8.3%

注2) 形状比 (平均樹高/平均胸高直径)：94

表 巻枯らし間伐 (9月処理 120cm 剥皮) と伐り捨て間伐の作業時間の比較

試験区	試験区面積 (㎡)	処理本数	総作業時間	1本あたりの作業時間
巻枯らし間伐(2人役)	812	80	331分	4分8秒
伐り捨て間伐(2人役)	815	53	251分	4分44秒

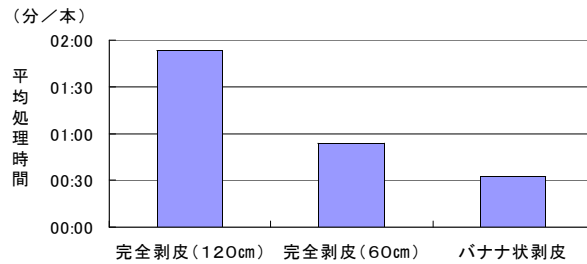


図2 剥皮方法と処理時間 (6月処理)

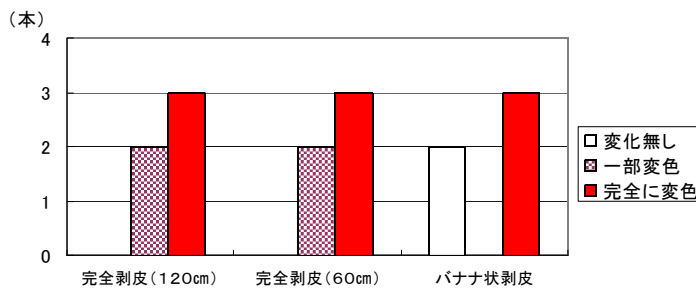


図3 剥皮6ヶ月後の葉の変色

[その他]

研究課題名：森林機能発揮のための簡易管理法の開発

予算区分：国庫1/2 (普及情報活動システム化)

研究期間：2004～2008年度

研究担当者：清水正俊 吉本貴久雄 森口直哉